

ASPR

★ORIGIN drumhead★

装着の仕方

- ①フープを外し、『ORIGIN』をエッジにのせます。
- ②フープを装着し、全てのボルトを指で軽く締めます。この際強く締め上げないでください。
- ③ボルトが届かないなど、②の作業ができない場合は、水に濡らす必要があります。装着したまま、表面を水が滴るほど濡らした布で全面を拭きながら濡らします。数分たっても乾かないくらいしっかり濡らします。10分ほど放置し、表面がふやけた様に柔らかくなった頃合いを確認し、ボルトを締めます。この作業をしてもボルトが届かない場合には、長いサイズのボルトを使用してください。(特殊なセッティングの楽器でなければ通常は標準ボルトで対応可能なはずです)
- ④ボルトを軽く締めた状態で、皮をエッジに馴染ますために、数時間から1日放置してください。(濡らして装着した場合には2日ほど放置して十分乾燥させてください)
- ⑤十分馴染んだら本締め(チューニング)してください。
- ⑥初めて触る本皮ですから、ピッチを上げることに躊躇してしまうかもしれませんが、しっかりとテンションを上げてください。音程はまず、A~Bflatを目安にチューニングしてみてください。使用しながら皮の特性に慣れてきたら、用途に合う音程、音色を作ってみてください。

ピッチの低い状態で叩くことは皮にとって一番のダメージとなります。
ご注意ください。

使用上の注意

- ① 本皮は人間の皮膚と同じでデリケートな素材です。傷をつけたり、許容範囲を越えたハードヒットをすると、確実に破損します。基本的に大切に扱ってください。常識として、足元にスベアの楽器を用意することをお勧めします。
- ②現代の空調設備の整った室内環境では、本皮を演奏する事に問題が起こることはまずありません。(外での演奏、湿度50パーセントを遥かに越える様な著しく高い場所はその限りではありません)しかし、雨が降れば若干のピッチダウンはありますし、室内での、人の密度が高い場所では息などの湿気で同様なことは起こり得ます。低いピッチでの演奏は皮に対し、一番ダメージを与えます。テンションは常に高めにすることに注意してください。
- ③高いピッチを続けると、皮は自然な収縮を繰り返しながらも、だんだん延びて、結果リムが下がって来ます。そうした状況がリムショット等の演奏に支障が出るようになったら、交換の時期です。皮の状態、使用の環境によって交換時期は変わります。
- ④演奏後の取り扱いについては、使用後に皮を緩めることで、皮の延びを最小限にします。しかし、あまりにも極端に緩めると、次にテンションを上げるために収縮を大きくさせる必要が出てきてしまいます。さらに極端な収縮を演奏の度に繰り返す事になると劣化が早まります。従って、ほんの少しだけ(半音程度)下げれば必要十分です。ただし、湿気が多い梅雨時には緩めないでください!
- ⑤しばらく使い続けていくと、特にクリアーのヘッドの場合、表面が白色に変化します。これは実はプラスチックヘッドにも起こっていることですが、叩くことによって表面が硬化してくるという物理現象です。硬化した同じ部分を叩き続けると、正常部分とのテンションの違いから音の詰まり、更には破損しやすくなってしまいます。白色化してきたら、ヘッドの向きを変えるなど工夫をすることで、長く音を保つことができます。